

読響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

大丈夫。

幼少期の輝きに触れることは、もうできない。
でも、その記憶は身体に深く宿り、
生きる力となって明日へと導いてくれる。

靈魂不滅の啓示

Intimations of Immortality from Recollections of Early Childhood

指揮：下野竜也 (首席客演指揮者)

テノール：ロビン・トリツチュラー

合唱：二期会合唱団 (合唱指揮：富平恭平)

コンサートマスター：長原幸太

池辺晋一郎：多年生のプレリユード

ベートーヴェン：交響曲 第2番 ニ長調 作品36

フィンジ：靈魂不滅の啓示 作品29

★ 読売日本交響楽団 第557回 定期演奏会

2016年4月14日(木)19時開演 サントリーホール

S ¥7,500 A ¥6,500 B ¥5,500 C ¥3,600

<http://yomikyo.or.jp/>

Subscription Concert, No. 557 / Thu. 14th Apr. 19:00 / Suntory Hall

Conductor: Tatsuya Shimono, Tenor: Robin Tritschler

Chorus: Nikikai Chorus Group (Chorusmaster: Kyohei Tomihira)

Concertmaster: Kota Nagahara

Shin-ichiro Ikebe: Perennial Prelude for Orchestra

Beethoven: Symphony No. 2 in D major, op. 36

Finzi: Intimations of Immortality, op. 29

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)

プレイガイド：チケットぴあ、サントリーホールチケットセンター

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

協力：アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社)

Hibiki to the World

SUNTORY HALL

マエストロ下野の執念。 フィンジの最重要作に光を！

林田直樹(音楽評論家)

哀しみを秘めた美しい旋律の魅力ゆえ、近年急速に注目の高まっている近代英国の作曲家ジェラルド・フィンジ(1901-56)の「靈魂不滅の啓示」が、いよいよ読響の定期演奏会で取り上げられる。

詩は、英国のロマン派詩人ウィリアム・ワーズワースの代表作から採られており、幼少期の回想と関連付けられている。不幸な生い立ちを持つフィンジの人生の根幹にかかわる最重要作であり、マエストロ下野はかねてからこの作品の上演に執念を燃やしているというから、大いに期待は高まる。

ソリストとして起用されたテノール歌手ロビン・トリツチャーは端正で抒情的な声を特徴とし、BBCプロムスやオールドバラ音楽祭、英国ロイヤル・オペラなどで最近頭角を現している注目の存在。パッハからブリテンまでレパートリーも幅広く、フィンジを含む近現代英国の作品を得意としているから、今回の上演には適任だろう。英国の音楽のみならず文学に関心ある人にとっても、フィンジの美しく劇的な音楽によって、新たなワーズワース体験になるのではないだろうか。

当夜と一緒にプログラミングされているのが、池辺晋一郎の「多年生のプレリウド」と、ベートーヴェンの「交響曲第2番」というのも、下野&読響のこのコンサートに賭ける意欲を感じさせる。池辺作品は、2011年1月に第500回定期演奏会で委嘱初演されて好評だったもの。こうした明快でエネルギーに満ちた作品は、一回限りではなく、タイトル通り、多年生植物のように繰り返し再演されてこそ、さらに愛される本当の新たなレパートリーへと育っていくに違いない。

ベートーヴェンは実は先述の詩人ワーズワースと同じ1770年生まれで、フランス革命に共鳴した自由思想の持ち主でありながらも、やがて独裁者となったナポレオンに失望した点でも共通している。「第2」は、有名な“ハイリゲンシュタットの遺書”の頃に書かれており、一見明るいながらも苦悩の色が見え隠れする、青年らしい意志的な交響曲。メインのフィンジ作品ともどこか通じ合うものがありそうだ。

こうした高い志を感じさせるプログラム、きっと深い感銘を残してくれるに違いない。

指揮：下野竜也

Conductor: TATSUYA SHIMONO

鋭い感性と熱いハートで活力に満ちた音楽をつくる俊英指揮者。2006年から6年余り、読響・正指揮者として、意欲的なプログラムを次々に披露し、多大な功績を残した。13年4月からは、読響・首席客演指揮者を務める。1969年鹿児島生まれ。大阪フィルの指揮研究員時代には、朝比奈隆らの薫陶を受けた。ウィーン国立演劇音楽大学に留学中、東京国際音楽コンクールとブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。以降、チェコ・フィル、シュトゥットガルト放送響、ローマ・サンタチェチーリア管などと共演し、国際的な活躍を展開している。現在、広島ウィンドオーケストラ音楽監督、京響常任客演指揮者、上野学園大学教授。



©Sussie Ahlburg

テノール：ロビン・トリツチャー

Tenor: ROBIN TRITSCHLER

リリカルな甘く美しい声で魅了する新世代のテノール。リートの殿堂ウィグモア・ホールで数多くリサイタルを開催し、高い評価を得ている。これまでにロンドン・フィル、リヨン国立管、フランス放送フィル、ロンドン・フィルなどに招かれ、ネゼーセガン、ユロフスキ、ヘレヴェッヘ、カラビッツら指揮者と共演。また、英国ロイヤル・オペラでも数々の役を歌い、BBCプロムスやルール・トリエンナーレでも活躍。2014年には、ボストリッジの代役としてグローブ座でリサイタルを開催し、一躍注目を浴びた。今回が初来日。

合唱：二期会合唱団

(合唱指揮：富平恭平)
Chorus: NIKIKAI CHORUS GROUP (Chorusmaster: KYOHEI TOMIHARA)

2012年に創立60周年を迎えた、日本でも指折りの歴史を誇る合唱団。2,600人以上の歌手たちが所属する声楽家団体「東京二期会」から選抜されたメンバーで構成されており、国内外から高い評価を得ている。

©読響

読売日本交響楽団 第557回 定期演奏会

2016年4月14日(木) 19時開演

サントリーホール

S ¥7,500 / A ¥6,500 / B ¥5,500 / C ¥3,600

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

サントリーホール30周年

記念参加公演

Hibiki to the World

SUNTORY HALL

読響

■学生券：学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択してチケットをご購入いただけます(一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く)。*郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド：チケットぴあ 0570-02-9999、サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017